話題・解説(II)

平成 29 年度核データ部会賞　奨励賞

平成 29 年度核データ部会賞が、下記の 2 名の方に決定いたしました。

奨励賞：「ランジュバン模型による核分裂機構解明の推進」
東京工業大学大学院理工学研究科　Mark Dennis Usang 氏

奨励賞：「JENDL-4.0 における 102Ru の熱中性子捕獲断面積評価値の検証」
東京工業大学大学院理工学研究科　　寺島敦仁　氏

表彰式の様子：深堀部会長より部会賞を表彰される Usang 氏（左）と寺島氏（右）

平成 29 年 9 月 14 日(木)　12:00-13:00、第 36 回核データ部会全体会議（北海道大学工学部 N 棟 304 講義室）にて、表彰が執り行われました。選考小委員会　渡辺幸信委員長による審査結果報告の後、深堀智生部会長より表彰状が贈呈されました。

受賞おめでとうございます。

尚、今回受賞を受けましたご研究につきまして、本号 2 月号（2018 年）の「話題・解説」にて解説記事を掲載しております。

奨励賞：「ランジュバン模型による核分裂機構解明の推進」
東京工業大学大学院理工学研究科　**Mark Dennis Usang** 氏

【受賞理由】

M.D.Usang 氏は、核分裂反応のランジュバン方程式に基づく理論計算に必要な輸送計数を微視的な核構造理論から導出し、これらが核分裂片の質量分布や全運動エネルギーを理解する上で重要であることを明らかにした。多くのアクチニド核種に対して、核分裂片の質量数分布や全運動エネルギーを計算し、これまでに知られている系統性と非常に良く整合性していることを示した、本研究成果は、核分裂機構に対する理解を大きく進めるものであり、核分裂に関わる核データの信頼性を向上させる上で、重要な貢献であると考えられる。よって、今後の研究を奨励する意味で、核データ部会奨励賞に相応しいと判断した。

奨励賞：「**JENDL-4.0** における **102Ru** の熱中性子捕獲断面積評価値の検証」
東京工業大学大学院理工学研究科　　寺島敦仁　氏

【受賞理由】

寺島敦仁氏は、核分裂生成物(FP)の核変換による資源化に関連して、FP 核種の放射化断面積に興味を持ち、実験と計算の両面からその放射化断面積の信頼性検証を行っている。自ら率先して海外の研究炉を利用し、放射化測定データを取得するとともに、その測定結果とベンチマーク解析等から、熱領域における Ru-102 の JENDL-4.0 評価値に対する改訂を提案している。国内の研究炉等が利用できない状況において、外国に出向いて交渉し、その困難を自ら克服する研究姿勢は高く評価できる。これらの成果は、JENDL-4.0 の精度向上に有用な成果であることから、今後の研究を奨励する意味で、核データ部会奨励賞に相応しいと判断した。